

衆院選、先頭に立って戦う 政策実現狙い民主党と連立も



新党日本
田中 康夫代表

衆院選を目前に控え、自民党と民主党の対立はますますヒートアップ。その二大政党の激闘に埋没することなく、小政党は活路を見いだすことができるのか。It's小タイムを執筆する政党幹部に、選挙戦略を順次聞く。初回は新党日本の田中康夫代表一。

直して創る政治に

―麻生政権の評価は。

「小泉劇場」の縮小版よろしく『世襲議員』『道州制』をめぐって、自民党内で対立を引き起こそうとしたが、いずれも失敗。東国原英夫宮崎県知事の入閣ももくろんだが、これも頓挫。『マンゴー知事のお笑いシアター』に終わった。麻生自民党は『オウンゴール』を繰り返している」

「一連の景気対策も、従来の自民党支持者向けのばらまきにすらなっていない。ならば、ミニ・ノートパソコンを国民全員に配布し、全国津々浦々、いつでも誰でも接続可能な無線LAN網を構築する方がよほどワイズ・スペンディング(賢い支出)だ。パソコンで行政サービスのやりとりも可能で、メディア・リテラシー(読解力)も高まり、結果的に効率の良い小さな政府も実現できる」

―新党日本は結党以来、脱タ

ム宣言を掲げているが。

「脱タム宣言は公共事業の在り方を変える脱タム宣言。ハコモノを『造り続けて』、財政、環境、地域を『壊す』のをやめ、『直す』ことで未来を『創る』発想へとチェンジする。商店街や集落の空き家を改修して、老人のデイサービスと乳幼児保育を一緒に行う『宅幼老所』は具体的な政策の一つだ」

―衆院選マニフェスト(政権構想)の目玉は。

「老若男女、赤ちゃんからお年寄りまで、働いている人もそうでない人も、体の不自由な人もそうでない人にも、生活に最低限必要な所得を一種の社会配当として支給する『ベーシック・インカム』の導入を掲げる。ヨーロッパと同じ様に実現すれば、これまで裁量行政の色彩が強かった年金や生活保護、失業保険を扱う社会保険庁や福祉事務所の廃止も可能となる」

―「予算も法律も人事も官僚に委ねられている現状を、政治家

が担う仕組みへと変える。官僚が人選している政府の審議会は、各省政策の追認機関となっている。検察審査会同様独立エック機関の『審査会』を複数設置する。外交関連では、天変地異や内乱・飢饉に巻き込まれた人々を支援するため、自衛隊を国際救助救援隊として改組し、特撮テレビ番組『サンダーバード』のような役割を引き受ける」

―目指す経済政策は。

「森を造ることにより水となり、よい水はよい農作物を作り、魚や貝を成長させる。地域に根差した農業・林業・漁業の新しい産業革命(新産業革命)を実現する。また、医療・介護、教育、観光こそ、人が人のお世話をする21世紀型産業を興し、既得権益を溶かすことで産業革命、雇用革命を起こす」

既得権益と闘う

―衆院選にどう臨みますか。

―小選挙区では、東京11区か

ら民主党の推薦を受けた候補者が立候補する。比例区では、南関東、北関東、東京、東海、近畿、北陸信越の各ブロックに候補者を擁立する方針だ」

―田中代表の兵庫8区からの出馬が取りざたされたが。

「小沢一郎民主党代表代行の東京12区への“国替え”と、わたしの“院替え”はセットで論じられてきた。地方だけでなく、首都圏と近畿圏でも投票率を上げることが政権交代の帰趨を左右する。先頭に立って戦う姿を示したいが、小沢氏と民主党がどう考え、動くかだ。公明党の太田昭宏代表が出馬する東京12区は注目区。それなりの候補者を擁立しないと民主党の見識も問われることになる」

―小政党には厳しい戦いとなりそうですが。

「自民、民主両党はいわば百貨店。いろいろな売り場、取引があり、“ハケン”もいる。“ハケン”とは、自民党の場合



は各種団体関係議員であり、民主党のケースは組合出身議員だ。名古屋、さいたま、千葉、さらに横須賀の市長選の結果は、民主党への全面信任投票とは言えず、天下り、渡りといった『官僚統治』に対する拒絶、その官治と表裏一体の関係にある『組合統治』への嫌悪が根底にある。新党

日本は既得権益と闘い、脱しがらみ・脱なれあいを訴える」

「日本郵政の社長人事で、自民党は新自由主義の信奉者・西川善文氏の統投を決めたが、あろうことか、その統投を労働組合が全面支持し、その組合が民主党のみならず、社民

党、国民新党とも連携している。組織の都合と個人の願いの間でねじれが生じている。麻生内閣支持率と変わらぬ加入率18%の組合が労働者の代表として振る舞う社会の構図に違和感を抱くウルトラ無党派層の期待に応える」

微妙な有権者の体内時計

―民主党は衆院単独過半数を目指すと言気込んでいます。

「鳩山由紀夫代表の政治資金問題は、企業から個人へという献金の流れを作ろうとしていた矢先で、イメージダウンは避けられない。有権者の“体内時計”とは、政権交代が難しくと巷間伝えられれば政権交代の“針”を進めようとするが、政権交代必至と言われると妙に“安全装置”が働くものだ。民主党の過半数獲得はそう甘くない」

―民主党を軸とした連立政権が誕生した場合は。

「鳩山代表と6月19日に都内で会談した際、衆院選後に民主党中心の連立政権が発足した場合一緒に政権を担ってもらいたいとの要請があった。新党日本は参院で民主党と統一会派を組んでおり、公共事業の在り方を変える新党日本の政策が成果として示せることが可能ならば、と答えた。2003年、民主党と自由党が合併直後の総選挙で、当時知事だったが『地方主権担当相』として閣僚予定者名簿に載り、小沢、菅直人両氏と一緒に比例の政見放送も行った」

―衆院選後の政界再編は。

「民主党が“大勝ち”しなければ、政界再編は起こる。自民と民主が拮抗する結果に終われば、自民党は流動化、液化化する。民主党の小沢代表代行の次なる一手が引き続き注目される」

(聞き手 編集部 松浦 義章)